

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	杉並区高井戸東 2 - 2 6 - 1 1 階
園名	のんな保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色、感触、物体の変化、物体を変化させること、その探求、また、これによって想像されたものに対して児童が感じたことを捉える。

<テーマの設定理由>

普段の生活で使うことがないような画材、素材を使うことで、子供たちの創作意欲とともに探求心を育み、また、その過程を観察することでスタッフが子供の個性を感じ取り、保育に生かすため。

2. 活動スケジュール

2026年 4月10日、5月22日、6月5日、7月10日、8月14日、9月25日、
10月23日、12月18日

2027年1月9日、2月12日、3月12日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

材料：各種紙、アクリル絵の具、ポスターカラー絵具、ペン、水彩色鉛筆、洗濯のり、色紙、テープ各種、土粘土、豆電球。

道具：筆各種、ローラー、ハサミ、容器各種、スポット、ドロPPERボトル、粘土用カッター各種、

環境設定：床に防水布（テープを使用）で養生し、4人掛けテーブル、椅子4脚を2セット。テーブルには十分な数の道具を配置。手作りの乾燥棚を設置、雑巾を大量に用意。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

アクリル絵の具、ポスターカラー絵具、ペン、水彩色鉛筆などのペイントとともに筆などの画材を用い、色の変化を体感し、水や洗濯のりなどを加えることによって物体が色や形を変化させることを知る。色紙やテープやいろいろなもの（土粘土など）をハサミや道具を使って自ら切るなどして得られた物を融合させ想像を広げる。別の素材などを融合させ、今までと違う視点を見つける。大人が物の扱い方、やり方の指示はしない（やって見せることはある）。

〈活動中の子供の姿・声、子供同士のやりとり〉

混色して出来た色を筆を使い、対話した大人の手や腕などにつける 2 歳児。

できた色をひたすら自分の顔や体に塗り、互いを鏡のように見合う 2 歳児二人。

ペイントに水を加え、変化させたり、流してその動きを観察する（0 歳児～2 歳児の多くに見られた）。

ペイントしている子の隣の子や、通りがかりの子が加筆する。又は水を流す。（しかしいさかいになることはほとんどなく、作業は広がりながら展開する。

「丁寧に塗ったんだね」との大人の声掛けに「今日はそんな気分」と返す 2 歳児。

容器をブラシで磨いて「ばい菌だらけ」「きれいになった」と歯磨きに見立てる 2 歳児。

ボトルのキャップを開けたり、切糸で粘土を切ろうとする 1 歳児。

ドロPPERボトルに作った色を入れ、ドロッピングして描く（0 歳児～2 歳児）

同じように容器にペイントを入れ、同じ色をリクエストして、顔を見合わせて楽しそうにはしゃぐが、手元に残った作品は全く違うものになった 2 歳児女子二人。

道具をバラバラにテーブルに散らばらせる 1 歳児。

ポスカの芯を抜いて色水に浸す 2 歳児。

「体の中」「おなかきられちゃったよ」「血。」と土ねんどを目の前の大人に見立てて切れ目をいれたり、着色する 2 歳児。

描くことや、制作には全く参加せず、できた作品の展示に身振り手振りで意欲的に参加する 1 歳児。

ペイントを避けてか、足を養生シートにつけず座る 1 歳児

気になるものや使いたいものをリクエストするが、自分でうまく使えず、スタッフにさせて様子を見る 1 歳児。

物よりその場にいる人間の様子が気になる 1 歳児。

色水を入れたバケツの中に雑巾や色鉛筆など様々なものを入れ、しぶきが上がるのを見ていた 2 歳児。

「なんで入れたの？」の問いには返事なし。偶然見つけた面白い現象（水のしぶき）だったよう。

四角いスポンジをテーブルに押し当て、色が四角く抜き取られるのを見て「四角くなくなった」と言ったり、ペイントを腕につけて「冷たいね」と誰かに言葉で伝えようとする 2 歳児。

容器からペイントを垂らし、色がマーブル状にゆっくり混ざっていくのをよく見ていた 1 歳児。

泣いて大人にすがすが、そのままスタッフが絵具のコーナーに誘うと戸惑いながらも筆をつかみ、流れてきた絵具を使って描きだした 0 歳児。

みんなが活動する様子を養生の際で見つめる 1 歳児。

展示するとすべての作品にリアクションし、笑顔でうなずいて鑑賞する 1 歳児。

養生シートの際で活動する 1 歳児（汚れるのを嫌がる）

友達に「～ちゃんもやりなよ」と誘う 2 歳児。大人の顔を見て「やっていい？」と聞く誘われた 2 歳児

道具は持つがなかなか描きださない 1 歳児に「こうだよ」と書いて見せる 2 歳児。

他の子がやっていることをすぐに真似する 0 歳児、1 歳児、2 歳児。

自分の作品や自分がやっていることを大人に対してのみアピールする。

水分を吸った紙をこすり「もそもそ」とひょうげんする 2 歳児。

5. 振り返り

<振り返りによって得たスタッフの気づき>

転回を待つこと。自分だったらそこまで行く前に「こうしたら・・・」と終わらせようとしてしまうが流れを待つことが大切だと気付いた。

子供の世界には言葉以外の表現もたくさんあり、近くでかかわる自分たちが見逃さないようにしたい。

自分でてを洗って終了するのを決めた子供を見て「遊びこむ」ことを考えさせられる。

今まで謎だった行動の仮説（～だからじゃないのか？）が浮かんできた。そしてポジティブにとらえることができた。

すべての子に違うストーリーがある。

影響しあっていた二人、もし、互いのどちらかがいなかったらこの行動は起きなかった？

教えられるとその子の「表現」が変わってくるのか？周りの子が自由に探究活動することで解放される気がする。

同じスタートでも見つけ出すのは十人十色

相手を見ながら、伺いながら行動を決めるのは良いことでも悪いことでもなく必然では？

こどもたちはマルチタスクである。

年齢に関係なく、人格、性格、感情がそこにある。感情の奥深さは人間関係の奥深さでもある。

行動の背景を想像することが大事。

日常の遊びの中では「～ちゃんが使っているよ」区切って（分けて）いたが、アートスペースの中では「～ちゃんの」という区切りがなく、スペース全体がひとつのような感じだと気が付いた。

人間関係が構築されている。

普段の保育でも集中して物や対象に取り組める時間を作るにはどうすればよいか？

いつもと違う雰囲気の中、それぞれの成長（相手の頑なな気持ちを溶かす子、怒っていても手加減するところなど）がより際立って見えた。

描くこと、制作することだけではなく、展示に参加することで「関わり」や「探求」を深めることもある。

想像以上に年下の子は年上の子を見て倣っている。

他の子が自分の作品に加筆したり、使っているものを取った取られたという争いが少ないのは、制作中は「自分の物」という意識がないのかもしれない。

観察することの大切さを知った。観察することは個性を知ること。







